

入すべし、火移り遅ときは支度して待べし、火移早過たらば、たがひに手水つかひて待もよし、中立の後、火移早過れば炭をさし添、又火を減する類の事、大成本意の違也、火相湯相の遅速を考へて、露地出入し、松風雷鳴の的然に、一服の茶を點じ喫してこそ茶湯の出來たるとは云べけれ、扱火相の考へ、賞客末客専心を用べし、中坐の客とても火相不考と云事にてはなし、夏は懷石後炭をするゆへ、中立も緩々としてよし、

〔茶道要録_下實法〕中立之事

菓子ヲ食終テ見合立ベシ、上客貴人ノ時ハ、下座一人先へ出テ御履ヲ直スベシ、少シ上メナル客有之者、下座ノ者、潜口ノ道ヲアケテ上座ヨリ出スベシ、是下座ニ口有時ノ事也、上座ヨリ下座へ、其ヨリ出玉ヘトノ時宜アラバ、互辭シ讓ルベシ、各同輩ノ時ハ、潜口ノ方ヨリ可出也、風爐ノ時ハ、釜ノ煮音出ルヲ待聞テ立ベシ、煮音出ナバ、一人ツ、立寄テ炭ヲ見物シ、直ニ可出、是ハ火移ヲ見ルバカリ也、

腰掛法之事

刀掛ニ有脇指バカリ帶シテ腰掛へ可行、又腰掛遠則刀モ指ベシ、小座席ノ口見ル時ハ、心ヲ付テ潜ノ戸ヲ見ベシ、座敷ノ置合調へバ、戸ヲ明カクル也、是座ノ仕廻ノ相圖ナリ、程遠則或喚鐘或鉦_ト鐺ヲ以テ案内有ベシ、

〔茶式花月集_二〕一此間_出主菓子_ヲ後ニ手水鉢へ水ヲハリ、腰掛へ烟草盆出ス、但シ腰掛近ク、客へ近ク、手水鉢ノ水入難キトキハ、湯出置、手水ノ水入置、

一客中立

客爐ノ時ハ、掛物ヲ見テ立、風爐ノ時ハ、掛物ヲ見、風爐ノ前へ行、風爐前ヲ見テ立、

夜咄ノ時ハ、菓子ヲ出ス時ニ、手燭ヲ路次刀掛ノヘシへ出シ置ク、上坐此手燭ヲ持、不殘一所ニ